

平和の尊さを次世代へ伝えます

市内の中学生 10 人が広島を訪問



昨年 12 月の「平和都市宣言」に伴う平和事業の一環として、市内の中学生代表 10 人が広島を訪問しました。この派遣事業は、中学生たちが戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、現地で体験したことや感想を友人や家族、地域の方などに伝え、平和への思いを共有することを目的にしています。

総務管財課
☎995-1808

「広島市への中学生代表派遣事業」の概要

7 月 27 日(水)から 29 日(金)まで 2 泊 3 日の日程で、市内 5 つの中学校から推薦された代表生徒 10 人が、広島市の平和記念公園や本川小学校平和資料館、平和記念資料館などを訪れました。現地のボランティアガイドの解説を受けながら、施設見学や被爆者の体験講話を受講するなど、貴重な経験を通じて、平和の尊さや命の大切さを学ぶことができました。

中学生代表派遣事業報告会

8 月 8 日(月)、広島市を訪れた市内の中学生 10 人の報告会が市役所で行われました。広島訪問で感じたこと、これから自分たちができることなど、それぞれの思いを生徒一人ひとりが報告しました。生徒たちは「戦争の恐ろしさ、平和の尊さを感じた」「原爆の怖さを思い知らされた」など、次世代を担う若者の平和に対する考えをしっかりとした口調で語りました。



中学生派遣事業 ～「平和」とは何だろう～

広島を訪れた中学生の作文を紹介します。



西中学校 2年生
ふじた あゆむ
藤田 歩武さん

広島に行って感じたこと

僕は、広島に行ったことで、原爆や戦争の本当の姿、本当の恐ろしさというのを学びました。

広島は静岡よりも湿度が高く、蒸し暑い気候でした。セミがたくさん鳴いていました。商店街はたくさんの人でにぎわっていました。そして、71年前も同じように、たくさんの人が暮らしていたと聞きました。

8月6日午前8時15分。原爆が投下されました。軍事的には、必要のない攻撃だったが、戦後の処理を見据えて、入念な訓練などを行い実行されたガイドさんに聞きました。とてつもない温度と爆風、そして、まき散らされ、人々の体を傷つけた放射能。その年までに14万人が亡くなり、現在までに30万人もの人が亡くなりました。

僕は、平和記念資料館で、こわいものをたくさん

見てきました。被爆者の写真、ガレキがどこまでも続く広島の街。地獄のようになった街を表す絵や文。そして、モクモクと湧き立ち、黒い雨を降らせたキノコ雲…。

いったいなぜ、そんな目に合わなければならなかったのでしょうか。なぜ、親を、子を、老人を、住む家を、街を、愛する人を、このようなひどいやり方で失わなければならなかったのでしょうか。なぜ、無差別に、罪のない人を被爆させたのでしょうか。

戦争は、勝った国にも負けた国にも、大きな被害と悲しみを生みます。原爆は今でも、被爆者の心と体をむしばんでいます。人は、平和を追求し、戦争をやめ、笑顔があふれる世の中へと進んでいかなければならないと、僕は思います。過去の戦争で犠牲になった全ての人の思いを受けついで、誰とでも手を取り肩を組み、協力し合わなければなりません。

僕は広島で学んだ原爆の恐怖に大きなショックを受けました。しかしそれ以上に、今平和な生活ができるありがたみを感じました。



西中学校 3年生
いしかわ まほ
石川 万葉さん

広島が伝えたもの

被爆者と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか。1945年8月6日、原子爆弾が広島に落とされました。それは強力、巨大なもので爆風は巨大竜巻の2倍もあり、一瞬で辺りは黒くなり火の海となりました。

今回私たちは、平和と戦争について学習をするために、戦争の被害が最も大きかった広島を訪問しました。そこで、一番心に残ったことは、後障害の方々のお話でした。後障害とは、被爆してすぐに症状が出るのではなく、被爆してから何十年後に出る症状のことで、代表的なものはガンや白血病などがあります。私は今まで被爆者とは被爆した瞬間に体が溶け皮膚が垂れ下がった人や、全身やけどした人やガラスが刺さった人のイメージしかありません

でした。しかし、今回広島平和記念資料館や3歳のときに被爆した飯田國彦さんのお話を聞き、被爆者とは外見だけ、目に見えるものだけではなく、いつまで経っても症状が治らない、終わらない人もいるということを初めて知りました。そして、現在も病に苦しみ、深い心の傷がいまだに治らない人がたくさんいることがわかりました。

終戦から71年、広島への原子爆弾投下に意味はあったのでしょうか。日本にとっては原爆、戦争の恐ろしさを自覚し、平和の大切さを考えるきっかけとなり、世界も同じように原爆の恐怖を実感したはずですが、しかし現在、世界で核兵器を所持している国は8か国もあります。さらに、核兵器の恐ろしさをあまりわからずに所持している国もあり、私はなぜ知らないで所持しているのかおかしいと感じています。核兵器は二度と使用してはならない。使用することでどれだけの犠牲者が出るのか、それで自国の平和を守れるのか。もっと世界のたくさんの人々に核の恐ろしさと平和の大切さを理解してほしいです。

中学生派遣事業 ～「平和」とは何だろう～



東中学校 2年生
すずき たかひろ
鈴木 孝弘さん

平和な世界を…

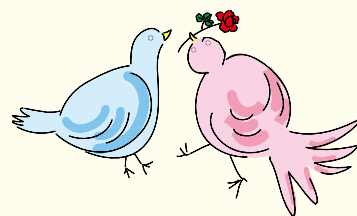
この世の中には戦争によって、たくさんの人々が亡くなりました。

そして今でも世界では、まだ、戦争をしている国が多くあり、ニュースなどで「何人死亡」「何百人が重傷」などと聞くときがあります。私は、そのたびに、何故戦争をするのだろうか、人を傷付けあったっていいことないじゃないか、と思うのです。

私は、実際に戦争ですごい被害を受けた広島県に行ってきました。そこで戦争は、一気に何千万人の命を奪い、5年先へも10年先へも、影響をあたえ、すべての人の心に大きい傷を負わせてしまうということを学びました。さらに、今の首脳は20%から30%しか戦争のことを知らずに、平和の事で話し合っているという事も知りました。なので、まずは

私たちから戦争のひどさ平和のよさを広めていこうと思います。

さらに、より平和な世界を作るためには、イジメをなくす必要があると思います。私は、イジメも戦争も、同じようなものだと思っています。イジメも戦争も、命を奪い、人の心に大きな傷を負わせてしまうからです。イジメは、やってもなんにもいいことがありません。イジメる方もイジメられてしまう方も、両方いやな気持ちになります。なので、まずは、私たちがイジメをなくしてそれから、戦争のひどさ、平和のよさを広めていきたいと思っています。そうすれば、イジメのない、戦争もない、だれもが笑ってられる、平和な世界を作れると私は思います。



東中学校 2年生
しみず こゆき
清水 小雪さん

平和のためにすべきこと

私が被爆者の方から聞いた言葉は、今までに聞いたことがないものでいっぱいだった。「足が壊死していた。」「目が飛び出していた。」など、たくさんの方が原爆で苦しんだことが想像できた。私は、被爆者の方のお話を聞き、今までの戦争、平和に対する考え方が甘かったことを知った。

平和とは何か。そして今私達は平和な世界の中で生きているのか。広島研修を終えた後、私は自身に問いかけた。私は、まず平和のことを考えた。私の答えは、「この地球上の人々全員が争いなどにおびえず安心して暮らせる」ことだと思った。なぜなら、私は日々の中で時折、(平和だなあ…。)と思うことがある。その時は決まって、学校で良いことがあった時などだ。だから、自分の心が楽になり、

安心して暮らしている時だ。しかし、現代の世界では、紛争やテロが相次いでいる。これらの周りで暮らす人は、決して安心して生活ができているとは言えないだろう。毎日不安で、いつ自分が死んでしまうのか分からない状態では、平和とは言えない。

今、私は安心して暮らせている。その一方で、安心して暮らせていない人達は何人もいるのだ。こうして私の考えから平和を考えると、世界平和は程遠いのではないと思う。だが、それではだめだ。これからどう動くかでこの世界は変わっていくはずだ。たがいを認め、人の話をよく聞き、話し合う。そんな誰にでもできる小さな心がけで、紛争やテロ、核兵器がなくなることでさえ、夢ではなくなるはずだ。地球上の人々全員が、安心して暮らせるようになるには、地球上の人々全員が心がけなければならないことがある。私はいろんな人達に、大切なものを守るためにどうしたらいいのか、考え、気付いてほしいと思う。

広島を訪れた中学生の作文を紹介します。



富岡中学校2年生
なかのしょうや
中野 翔哉さん

平和への祈りを込めて

僕は、広島に行ったのは初めてでした。平和についてしっかりと考えられた機会になりました。

原爆ドームを初めて生で見た時、胸が重くなりました。被爆して焼けてしまった黒いこげ、デコボコになった鉄筋コンクリート。原爆ドームは戦争の悲惨さを伝え、平和について問いかけているようでした。取り壊しをしていたらこの悲惨さを誰が伝えていたのかを考えると、原爆ドームは永遠に残すべき世界遺産だと思います。

平和資料館には、見てつらくなるもの、グロテスクな物はたくさんありました。しかし、見てつらくなるものを見ることによって、被爆した当時の様子が分かると思います。被爆した物はどれも黒くて、本当に大きな被害を受けたのだとこの肌で実感しま

した。

平和記念公園外にもたくさんの平和資料館があり、その中でも、大きな被害を受けた本川小学校へ行き、当時の学校のことについて見たり聞いたりしました。同じ年代の人が被爆しているので、僕たちが生きていられるのは当たり前のことではないと思いました。

広島平和記念公園を訪れていない人が、同じ日本人でも多くいます。広島原爆の詳しい所まで知らないで生きている人がいます。核兵器は未だになくなりません。いじめ、差別がなくなりません。原爆のことを世界中の人がよく知って、よい世界を築き上げられるようにしなければいけないと思います。

平和の灯にこめられた思いがけない、核兵器が世界から無くなる日はいつになるのか世界中の人が考え実行していかないと世界平和になれないと思います。みんな違ってみんないいと思います。命を授かった以上は、生きなければならない。1人1人を大切にしていれば生きていかなければならないと思います。平和の灯を消さないように祈り続けたいです。



富岡中学校2年生
たしろおとは
田代 乙葉さん

meaning

人が行うこと、人工的に造られた物には意味がある。「平和の灯」の手の形にも意味があるという。この手の形なら何もすることができない。言い換えると、他国に手を出すこと、それができなくなる。手の形からも平和を願う気持ちが伝わってくる。「平和の鐘」には、他国との壁をなくそうという願いがある。鐘に描かれた世界地図には国境がない。これには、国々に分かれていなければ対立もない、という理想が込められていると思う。その他にも、原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんは、自分の病気が治ると信じ、千羽の鶴を折った。心が折れないよう、祈りを込めて、鶴を折り続けたのだと私は思う。

私たちは被爆者の方のお話もお聞きすることができました。後遺症を持ち、いじめられた過去ももった方

だ。本当は被爆者だということも、当時のことも話したくないだろう。原爆ドームも悲しみがよみがえるため撤去をしようとも考えた。それらを話して下さったこと、残して下さったことは、私たち、そして次の世代へと平和の大切さを伝えていくため……。

私たちの知っている被害は、爆心地から少し離れた所。もっと近い所では、叫ぶ間もなく白骨化されたという事実もある。助かった人の方が辛い思いをしている現実もある。

平和とは、争うことがなく、世界中の誰もがやさしくやかであること。裾野市が平和都市宣言をしたと共に、私たち中学生を広島へ平和学習のために派遣して下さった意味は、戦争の悲惨さを忘れたら、きっとまた過ちを繰り返してしまうから。私たち若い世代が平和の大切さを後世に伝えていく必要がある。私は、原爆について、今まで何も知識がなかった。しかし、この研修を通して多くのことを感じ学んだ。今までの私のように原爆のことを知らなかった人にも、知ってもらいたい。

中学生派遣事業 ～「平和」とは何だろう～



深良中学校 2年生
いしかわ ゆうすけ
石川 裕介さん

広島を視察して

僕は5年前に、家族で原爆ドームに行きました。まだ小さかった僕は、親から説明を受けたものの、戦争や原爆について、あまり理解できずにいました。

小6から社会で歴史を学ぶことが増え、戦争や平和について、考えることが多くなりました。

今年、裾野市でこのような企画があることを知り、現地に赴き、戦争について、原爆について考え、平和について学び、僕にできること、したいことは何かを考える機会になればと思いました。

爆心地に一番近い本川小学校の資料館や、平和記念公園、原爆資料館で、多くの写真や当時のつめ跡を見てきました。原爆の悲惨さに驚きました。

原爆を体験した方の話では、当時の悲惨な様子を伺うことができました。家族との別れ、ご本人も下

痢や頭痛など、つらい思いをしながらも、中学では、学年トップになるなど、がんばり続けてこられたお姿を拝見し、心折れずにがんばることの大切さを実感しました。

私の周りには、戦争を知らない人がたくさんいます。今回学んだことを、きちんと、中学校のみんなに伝えていきます。

そして、平和について考える意識づくりができるといいなと思います。もし、学校内でいろいろな問題があるならば、それは平和といえないと思います。身近な平和について、みんなで考えていくことも大切だと思います。

今回、一緒に参加したみんなとは、心を通わせることができました。これからも、語り合う機会が持てるとうれしいです。

三日間、考える場を与えていただき、ありがとうございました。



深良中学校 2年生
ますだ りゅうき
増田 琉希さん

戦争からの日本

広島は、今から71年前、午前8時15分に原爆が落とされた広島は、重大な被害にあいました。広島の国民、その時広島にいた人々の多くの命が失われました。現在、今の日本は、戦争もなく平和です。でも、日本は、その戦争の悲劇を、忘れようとしています。ぼくは、それが許せません。ぼくは、広島に行き戦争の恐ろしさを目で見て、その時から、戦争というものの感じ方が変わりました。最初は、自分たちには、関係ないと思っている人のほうが、今の日本の100%のうち、80%を占めていると思いました。ぼくも広島に行くまでは、その80%に入っていました。だけど今思うとぼくは、今の日本は、汚いと思いました。なぜかという戦争の中で命をつくってまでも戦いにいった人々は、今までは、ば

かにされ、逆にぼくは、そういうばかにする人がこの日本を背負って行けるのか、ぼくは問題だと思いました。人間は、感情で体が動きます。でもその感情のせいで人が命をなくします。それが悲しいです。人は、助け合いながら生きていく動物なのにできていません。それよりか戦争後よりひどくなっています。

少し話題を変えますが、にくい人をすぐ殺そうとする人は、どう思って殺しているのでしょうか。もしそれが感情ならばその人はただ感情に支配されるロボットです。でも戦争で戦いに行った人々は、普通に人を殺すのは、あたりまえです。でもその戦争の戦いで人を殺したあと全体に罪悪感がでるはずで。その殺された人も家族を持っているはずで。でも生きるために人を殺すのが戦争です。最後に国は、1人の手では、良くなりません。でも国民みんなが力を合わせて国にたいこうすればきっといい国がつかれると思います。

広島を訪れた中学生の作文を紹介します。



須山中学校2年生

いづか あつし
飯塚 厚さん

平和学習に行き感じたこと

先日、オバマ大統領が広島を訪れました。そこでは、「核兵器のない世界」という題でスピーチを行いました。

今回僕は広島に行き、平和の大切さ、戦争の怖さ、核兵器はどれだけ恐ろしいのかを改めて知ることができました。

まず、平和記念公園で見た原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返させぬから」という文字が刻まれていました。この文の主語は、全人類に適用されるのだとガイドさんから教えてもらいました。絶対に繰り返してはいけない核兵器について心から恐ろしさを感じました。そして、平和記念公園には折り鶴がたくさんありました。折り鶴は平和の象徴とされています。当時2歳で被

爆した佐々木禎子さんが、折り鶴を折れば元気になるという意味で折り鶴は平和の象徴とされたそうです。そのため僕も今回、広島で平和の折り鶴を作って、平和への願いを込めました。

以前、平和記念公園にマザーテレサが訪れたそうです。マザーテレサは原爆ぎせい者の上を土足で歩くことはできないと、はだしで歩いたそうです。僕は外国の人が自分の国のことのように世界全体の平和を考えていることにおどろきました。

今回の広島への平和学習で学んだことを同級生たちに積極的に伝えたいと思いました。3歳のときに被爆した飯田さんはあらゆる国の文化、宗教、環境を大切にし、人々を尊重するという話をしてくれました。僕はこの言葉を聞き、平和に対する自分自身の意見をしっかり持つことが大切だと思いました。この世の中から、核兵器がなくなることを、世界が永久に平和であることを祈ります。



須山中学校2年生

しまぎき さら
島崎 紗羅さん

平和な世界を目指して

私は7月の27日から29日まで、裾野市の広島市派遣事業で広島へ行き、たくさんの貴重な体験をさせていただきました。その中で私が今の世界を目指すために必要だと思うお話がありました。

一つ目は本川小学校に原文があり、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に彫られている、「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返させぬから」という言葉です。ガイドの方が、「『過ちは繰り返させぬから』という言葉には、主語がない。私でもあなたでも誰かでもない。」とお話してくださいました。私はこのお話を聞いて、なんで主語がないんだろうと考えました。正解かどうかは分からないけど私は主語になるのは、この地球で今を生きているすべての人だと思います。何故ならば、このお話は今を生きている

私たちが過ちを繰り返さないために次の世代へ語り継いでゆくためだと思うからです。

二つ目は、被爆者の飯田さんのお話です。飯田さんは、今私たちがやるべきことを教えてくださいました。

「広島原爆の被害をよく見て友達や知り合いに伝えること。あらゆる暴力、攻撃、戦争に反対すること。身近な人達との繋がり、絆を大切にすること。あらゆる国の文化、宗教、環境を大切にし、人々を尊重すること。人の話をよく聞き、話し合い、外国の人とも互いに尊重し交流し友達になること。」

私は飯田さんのこの言葉をいつも心にとめておきたいです。

今世界には約15,700発の原爆があり、そのどれもが広島原爆よりもはるかに巨大で強力だそうです。これが今の世界で、事故であれ故意であれ爆発したら平和から程遠い世界になると思います。このお話をたくさんの人に広めて平和な世界を目指していきたいです。

※中学生のみずみずしい感性を生かすため、原文を掲載しました。